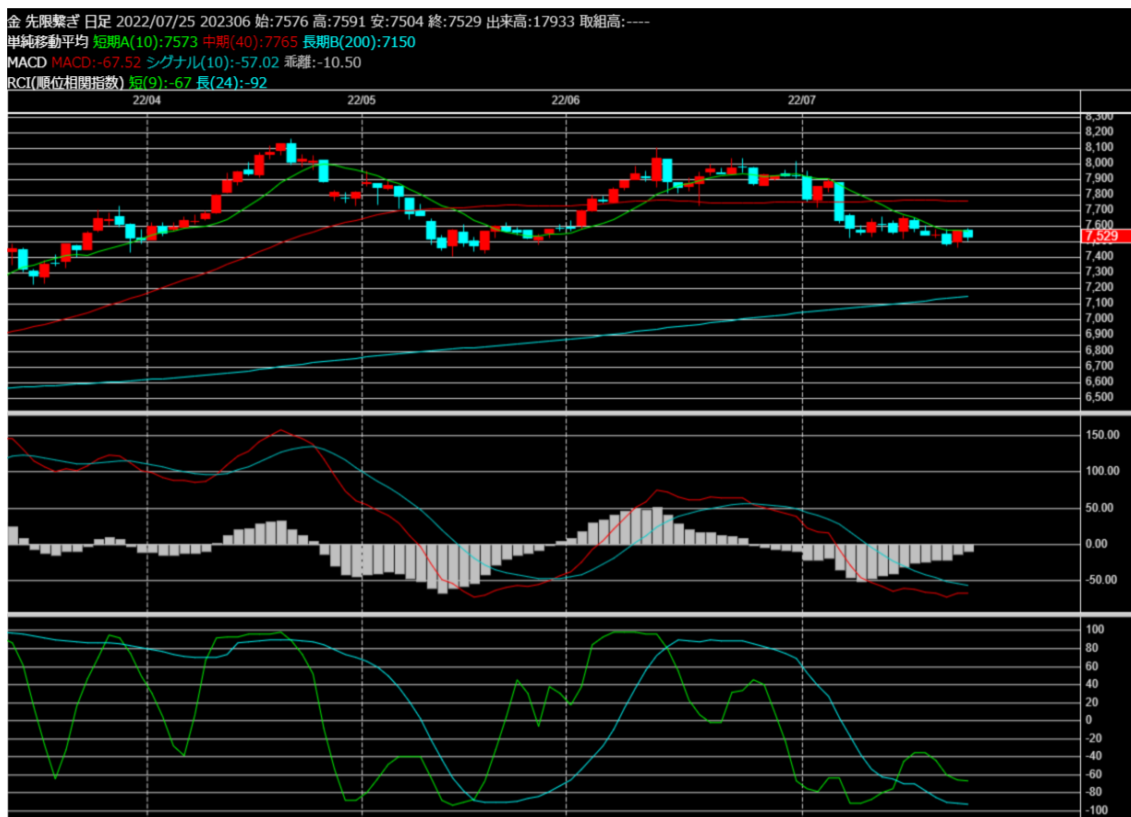


＜金標準先物、オシレーターは底打ちの見方が強まり 7600 円超え・・・＞



(出所：オアシス)

ECB 理事会で 21 年ぶりの 0.5% の大幅利上げを実施し、11 年ぶりにユーロ圏はマイナス金利から脱却している。また日銀金融政策決定会合では、現在の大規模な金融緩和策を維持することを決め、黒田日銀総裁は「金利を引き上げるつもりは全くない。金利を少し上げたら、それだけで円安が止まるとは、到底考えられない」と発言している。

しかし今週 27 日に FOMC を控え、長期のインフレが低下を示し、今年のメンバーでもあるブラード・セントルイス連銀総裁は年内 4 回の会合で 2.25% の利上げを予想し、7 月の 0.75% の利上げ以降は 0.5% を示唆するなど過度な利上げが後退し、週末の為替市場は円高：ドル安の動きを見せている。

そのため FOMC までは、現状の流れを維持するが、FOMC 後のパウエル FRB 議長の記者会見でインフレ抑制の発言が再度聞かれる様であれば、金融政策に基づく円安：ドル高に移行する可能性は高くなり、円安を受けて金標準先物は 7700 円へ向けた戻りを強めて来ると予想される。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では **MACD** と **シグナル** の乖離が縮小し、基調転換のサインであるクロスが発生する可能性が高まっている。また RCI でも **短期** と **長期** の下げ渋る動きに、日足が **10 日移動平均線** を上回る水準を示すなど、7573 円を超える事が示されると 7700 円に向けた戻りが予想されると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,450,000 円(2022 年 7 月 25 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 7 月 25 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>